



電気の28.5%を自然エネルギーでまかなう高知県高岡郡梶原町は、2009年（平成21）に環境モデル都市の指定を受けている。四万十川の支流 梶原川の付け替えで6.07mの落差をつくり、その流れを利用して54kW/hの発電をしている。この電気は、昼間は梶原学園（町立の小中一貫教育校）に使われ、夜間は82基の街路灯の電源として利用されている。滔々と流れる水は、愛媛県境に連なる1000m級の山から発し、涸れることがない。

## 小水力の底力

水は清らかに流れているだけで価値があります。しかし、流れる水はエネルギーをも秘めています。水力発電というと大規模ダムを思い浮かべますが、ダムをつくらず、環境を大きく変えないで、少量の水力で発電する方法が小水力発電です。

一方、自然エネルギーの観点から見たら、水力は、太陽光や風力同様、再生可能なエネルギー。CO<sub>2</sub>の排出もなく、環境に優しいエネルギーで、困った廃棄物も出しません。

こうした利点を挙げていくと、大いに活用していきたいと思いますが、水利用のルールがあるため、誰もが簡単にできるといっわけではありません。水をいかに利用するかという点に對し、新しい考え方を共有していかないと小水力発電を推進することは、まだまだ、難しいのが実状なのです。

それでも、資源がないといわれる日本において、潤沢に恵まれた「水」を使わないというのは、いかにももったいないこと。難しい課題に取り組みながら、小水力発電を推進するにはどうしたらいいか、真剣に考えることで、日本の未来のエネルギー問題に夢を描きたいと思います。

水の文化 39号 2011年11月

### 特集「小水力の底力」

小水力発電の未来とは	小林久	4
《地産都消》都市の役割	谷口信雄	10
体系的にみた水利権	宮崎淳	14
水の文化学習実践取材 鶴岡工業高等学校	編集部	18
老舗旅館のエコパワー	シリーズ里川 鈴木純子	24
小水力発電の巨人 織田史郎	沖武宏	28
地域密着型資源の可能性	古谷桂信	34
ものづくりの底力	廣林孝一	40
高知県高岡郡梶原町の挑戦 目指せ！ 持続地帯	矢野富夫	42
文化をつくる 小水力の底力	編集部	47
水の文化書誌 ダム文学の探求	古賀邦雄	48
里川文化塾報告とお知らせ		50
インフォメーション		51